

日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」
鳥取市における取組経過について

日本遺産制度とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定する制度。

ストーリーを語るうえで不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群も併せて整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域活性化を図るもの。

国では、東京オリンピックが開催される 2020 年までに約 100 件程度認定する予定としている。

認定経過

◆H29 年 11 月 24 日（金）「第 22 回北前船寄港地フォーラム in 鳥取」開催

全国各地の自治体関係者や運輸・交通・観光・商工など関係者約 1100 人が参加し開催されました。

同フォーラムは、民間が開催する国内最大級の観光コンベンションであり経済界とともに誘致活動に取り組み、開催の実現に至ったものです。

◆H30 年 5 月 24 日（木）日本遺産への追加認定

北前船寄港地フォーラムに関わる関係者によって、日本遺産登録への機運が高まり、H29 年度に 11 自治体で初年度認定を受け、翌年となる今年、鳥取市を含む 27 自治体も追加認定（西廻り航路）を受けたもの。

【評価されたポイント】

主に江戸時代、米や各地で必要とされる様々な物資を寄港地ごとに売買し、一度の航海で巨万の富を生み、同時に各地に繁栄をもたらしていた、北前船の壮大なストーリーが高く評価されたもの。

認定自治体全体で進める取り組み（地域活性化計画事業）

◆「北前船寄港地・船主集落ストーリー」の知名度向上を通じたブランド力強化

→ 大都市圏におけるアクティブシニア向けカルチャー講座、子供達の観劇機会提供によるファン創出、北前船認知度のための各種大学連携、公式 WEB サイト制作※

※7月19日（木）鳥取市において広報取材実施

取材箇所：白兔神社、青谷町地内、鳥取砂丘、賀露町地内ほか

その他：公式フェイスブックページにて先行公開済み

◆次世代継承のための人材育成

→ 学芸員等研究機会の創出、日本財団の協力を得た子供向け教育イベントの展開※

※8月1日（水）海と日本プロジェクト in とっとり

「北前船子ども交流拡大プロジェクト」

会 場：鳥取市立賀露小学校

参加者：5年生14名（希望者）

内 容：賀露と北前船の関わりをフィールドワークを通じて学び新聞にまとめた

◆ターゲットを明確にした観光客誘致

→ 広域観光周遊ルートの設定、及び誘客活動の実施

◆地元の“賑わい”創出と“誇り”の醸成

→ 物産振興、及びシビックプライド醸成

鳥取市独自の取り組み

◆PR懸垂幕の設置（鳥取市役所第二庁舎）－6月～7月

◆北前船寄港地日本遺産認定祝賀セレモニーの開催（賀露神社）－7月17日（火）

◆日本遺産PR看板の設置（賀露・青谷）－7月～

各種取り組み推進による目標と期待される効果

・設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化（観光客入込数）

H28年度 4,770万人 → H34年度 19,915万人

・設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化（地域の文化に誇りを感じる住民の割合）

H28年度 0% → H34年度 80%

・設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取り組みを行うための持続可能な体制の維持・確立（日本遺産への協力団体数）

H28年度 34件 → H34年度 235件

・設定目標Ⅳ：日本遺産に関する取り組みを行うための持続可能な体制の維持・確立（日本遺産のための寄付額）

H28年度 0円 → H34年度 6,000,000円

その他鳥取市個別事業（今後取り組み予定）

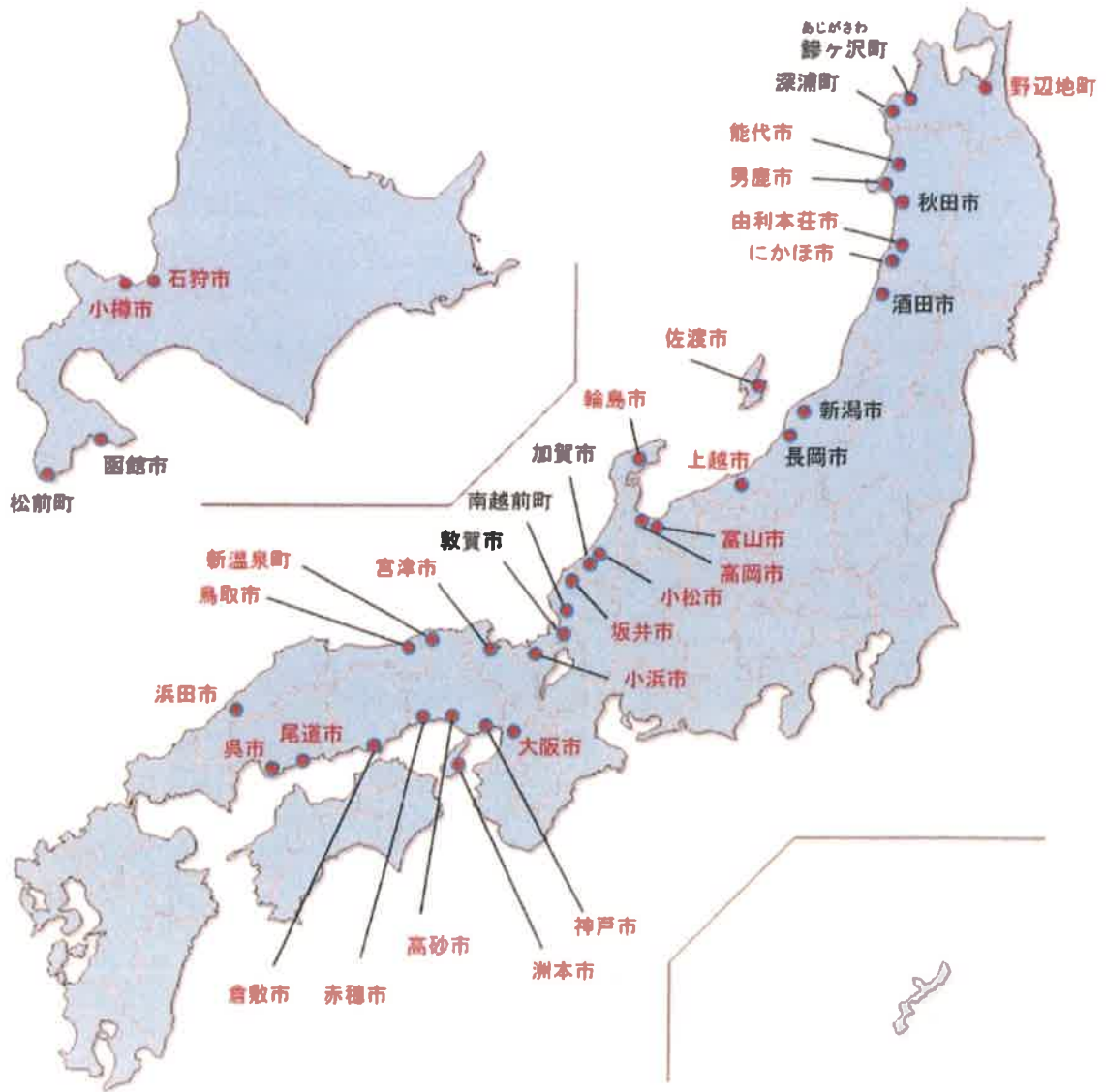
◆鳥取DMO北前船寄港地魅力発信事業（外国人向けノベルティ作成、サイン整備等）

◆鳥取DMO北前船寄港地周遊ルート形成事業（商品造成、寄港地への2次交通整備等）

◆北前船寄港地ガイド育成事業（既存ガイド団体等と連携した北前船ガイドの育成）

◆北前船寄港地サンセット・漁火クルージング事業（クルージングツアーの造成）

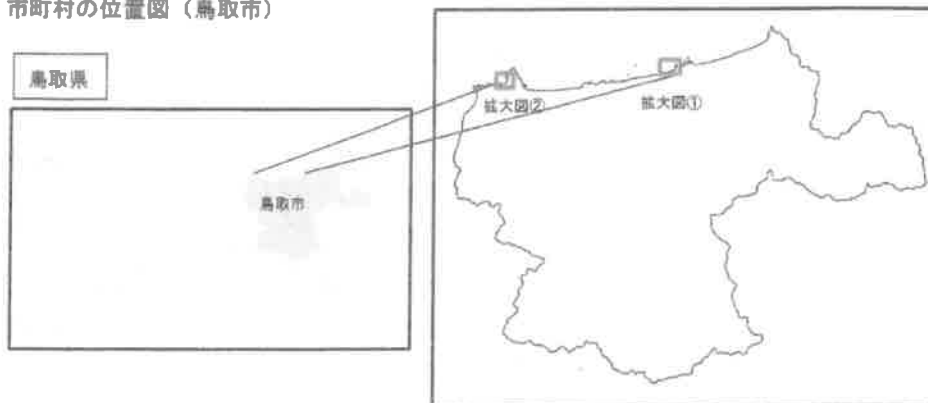
全国の北前船寄港地・船主集落日本遺産認定地



- ・ 黒字は平成29年度認定自治体
- ・ 赤字は平成30年度追加認定自治体

鳥取市の構成文化財位置図

市町村の位置図（鳥取市）



構成文化財の位置図（鳥取市）

拡大図①



拡大図②



日本遺産

【タイトル】

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」

【ストーリーの概要】

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

【本市の構成文化財】



鳥ヶ島は北前船を係留し、物資の揚げ降ろしをした、賀露港の入り口に浮かぶ島で、古くは取揚ヶ島といい、大型船を係留して荷を取り上げ、小さい船に移し替えていました。

近世初頭に上流の千代川から運ばれた砂によって湾内に大型船が入港できなくなっても、この島の存在によって賀露港は北前船などによる海上輸送の能力を維持することができました。

構成文化財に“島”があるのは珍しく鳥取の特徴のひとつです

構成文化財の説明

文化財の名称	ストーリーの中の位置づけ
賀露神社	北前船船主が集住する賀露に鎮座する神社。尾道石工の御神灯や船絵馬・船模型、錨などが奉納されている。
因州高草郡加路湊絵図	北前船等の大型船が停泊していたことを示す、鳥取城下の玄関口であった賀露港の江戸時代末期の絵図。
賀露神社春季祭礼行事	北前船を1／5で模した二隻の屋台（天保4年）を含む、賀露神社の2年に一度の大祭。
上小路神社	日和見山にある神社。尾道石工製の鳥居の部材が残されている。
賀露港の町割り	北前船船主が集住する港町。小路のほとんどが海に向かう町割りがよく残されている。
鳥ヶ島	賀露港に出入りした北前船の係留地。物資の揚げ降ろしをした場所。
気多郡芦崎夏泊両浦湊絵図	北前船で繁栄した芦崎（現・鳥取市青谷町）を描いた江戸時代の絵図。
湊神社の奉納物	北前船船主が集住する芦崎に鎮座する神社。常夜灯、狛犬、舟形の神輿が残されている。
芦崎の町並み	八軒屋と呼ばれた北前船船主が軒を連ねていた港町。船主集落の町割りをよく残している。
津出し路地	北前船から荷揚げされた、あるいは北前船に搬入される物資を運んだ通路。

第4回青谷地域振興会議(研修視察)議事概要

兵庫県立考古博物館説明及び意見交換会議事概要

○大中遺跡公園について

【博物館より説明】

国の史跡になっているため、史跡内には駐車場が作れませんので博物館としては駐車場を持っていません。学校関係の見学が多ので、団体用貸切バス用の駐車場として、土地の借り上げをしています。一般の方は、播磨町営駐車場(有料)に駐車しています。

大中遺跡は、1962年に地元の中学生により土器が発見された事が発端となり、遺跡を守る地元の運動の後押しなどがあり、国の史跡として整備されました。周辺にはお墓や田んぼ等があったはずですが竪穴住居跡だけしか発見されていません。大中遺跡の展示は、播磨町立郷土資料館で行っています。兵庫県立考古博物館は、兵庫県の考古学全般を扱っています。大中遺跡は播磨町と兵庫県の二つの行政が絡む形となっています。

○兵庫県立考古学博物意見交換会

県立考古博物館職員より、博物館の現状等について説明をしていただきました。

【博物館より説明】(説明の概要)

博物館をオープンする時、入館目標人数を15万人としました。最初の7~8年間は目標人数を上回りましたが、ここ2~3年は入館者数が落ちている状況です。入館者は小学生が多く、4月下旬から6月上旬にかけて学校の校外学習として必ず見学にこられますので、見学をお断りしなければいけない時もあるほどです。悩みとしては一般の入場者が増えていない事です。入館者は、無料ゾーンでは、小学生が圧倒的に多く、有料ゾーンでは高齢の方あるいは考古学ファンの入館者が増えます。

県の施設なので地元の人との結びつきは弱いですが、兵庫県と地元の自治体播磨町との連携は非常に良好です。何より兵庫県立考古博物館の土地は播磨町所有ですし事業をする場合は共催で行っています。

博物館は、ボランティアで運営している部分が多く、ボランティアを養成しています。ボランティア養成講座を修了されたらボランティアとして登録をしてもらい流れとなっています。研修内容としては、展示の解説のほか、古代体験の補助をしてもらっているので一通りの古代体験をマスターしてもらっています。

ボランティア養成講座を修了された人は300人以上いますが、現在ボランティアとして登録されている方は60代、70代の人が多く、全員で113人です。世代交代がなかなか進んで行かないのが悩みです。ボランティアの人は播磨町のほか、神戸市・明石市・姫路市など播磨町近辺からも来られています。報酬はありませんが活動にあたってはボランティア保険をかけています。

【委員】ボランティアの募集の期間はどれくらいですか？

【博物館】おおよそ1か月位です。

【委員】募集案内はどのようにされていますか？

【博物館】チラシを作って、近隣の公民館や図書館に配架をお願いしたり、ホームページに掲載をしています。実際にボランティア養成講座に来られた人は、公民館チラシと知人の誘いが多いようです。遠くから来られた人もあります。大中遺跡だけでなく広く考古学を学んでいただき、他の施設でのボランティア活動も行っていた

だけたらと思っています。実際に自分の住んでいるところでボランティア活動をされている人もあります。

【委員】ボランティア養成講座のハードルが高いように感じますが、申込をされて途中でやめられるようなことはありませんか？

【博物館】研修日が日曜日で受講できないなどの理由から中にはやめられる人もあります。人材確保が難しいのが現状です。

【委員】ボランティアとして定着されている人はどれくらいですか？

【博物館】3分の1位の人が定着されています。当日になって突然お願いしても対応していただける人が20人位います。

【委員】ボランティア同士の横のつながりはありますか？

【博物館】ボランティアの親睦団体として、考古楽倶楽部があります。ボランティア登録されている113人の内、7～8割の方が団体に入って活動をされています。

【委員】大中遺跡の史跡があったから県立考古博物館ができたのですか？

【博物館】候補地は他にもありましたが、博物館を建てるための史跡以外の場所を確保でき場所を提供していただけだったので播磨町に建設となりました。

【委員】入場者を増やすために、老人クラブなどへのアプローチをされていますか？

【博物館】アプローチはしていますが、実際に老人クラブの人は団体として来られるのは1度だけとなっています。興味のある方は、個人で来られます。

【委員】大中遺跡祭りはどんなまつりですか？

【博物館】大中遺跡祭りは、播磨町の大イベントで、シャトルバス等の運行もあります。大中遺跡祭りでの古代体験は、播磨町は、広く一般に向けた古代体験コーナー実施し、県立博物館は、少し専門的な古代体験コーナーを実施します。

【委員】何人くらい来場者がありますか？

【博物館】表は播磨町人口と同じ位で35000人と公表されています。

【委員】公園の管理について、清掃等に地元の人がボランティア協力されていますか？

【博物館】公園管理について、ボランティアの依頼はしていません。作業中の事故等のリスクを考え、業者に委託して管理しています。

【委員】体験メニューでは何が一番人気ですか？

【博物館】勾玉づくりです。材料費はかかりますが、作った後に持ち帰ることが出来ます。体験などの新しいメニューを開発するのが課題だと感じています。今年から他の博物館と一緒にメニューを考えるなど情報交換を始めました。

【委員】広く一般県民からアイデアなどを募集されていますか？

【博物館】まだ、募集などをしたことはありませんが、取り組んでみたらいいかもしれません。

【委員】シンボルマークについては公募されたのですか？

【博物館】シンボルマークは公募していません。デザイナーにコンセプトを伝え作成してもらいました。

国史跡 青谷上寺地遺跡の整備・活用について

今後の青谷上寺地遺跡史跡整備スケジュール

- ・基本設計 ～平成31年3月
(概算事業費算定及び算定のための資料、事業計画(年次計画・工程)など)
- ・実施設計 平成31年4月～9月(予定)
(基本設計を基に発注するための具体的設計図)
- ・整備工事 H31年10月頃～
複数年かけて整備し、整備終了した区域から段階的に公開。
全体整備が終了後グランドオープン

史跡整備及び施設の規模

整備面積 約140,000㎡
建物面積 1,000㎡(建床面積)、1,750～2,000㎡(延べ床面積)
展示収蔵施設：インフォメーション、体験・学習室、コミュニティースペース
展示室、収蔵庫、企画展示、ミュージアムショップなどを想定

整備事業主体 鳥取県・鳥取市

整備活用の計画を「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会」の整備活用部会で検討中。整備活用部会の委員は、7名の委員で構成されており、内2名が公募委員として青谷町から参加されている。

整備後の管理主体 未定(今後、県と市で協議される)

関係機関の取り組み状況

・鳥取県埋蔵文化財センター

土曜講座（5月～1月 隔月で上寺地遺跡関連講座を実施：年5回）

9月2日開催のあお市で「古代山陰道ウォーキング」や出土品の特別展示等を実施
シンポジウムアフターイベント

・青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会

古代米栽培体験（史跡指定地内の田んぼで青谷小学校及び一般を対象とした田植え：

6月8日（金）9日（土）、稲刈り体験（10月25日（木）27日（土））

古代米グルメ・スイーツ教室（古代米等を用いた教室、年2回、6月23日気高地内、
冬期に青谷町で）

青谷の古代に親しむ雅楽の夕べ（青谷上寺地遺跡、女子群像が発見された青谷横木遺
跡等、古代の歴史遺産の宝庫である青谷町地域の価値と魅力を発信するため
に、青谷町総合支所多目的ホールで雅楽を楽しんでいただくイベントを開催
予定：11月10日（土））

史跡指定地を活用した取り組み

菖蒲、がま、染物関係植物の栽培

・青谷上寺地遺跡展示館

勾玉づくり等随時体験

夏休み体験学習（鋳造体験・土笛作り・麻ひもコースター作り・組紐作り・カゴ作り）

・青谷上寺地遺跡を学ぶ会・友の会

青谷上寺地遺跡関連勉強会の開催

むきばんだ史跡公園祭りへの参加

・青谷総合支所

物づくり教室

ガラス細工・木工教室⇒子供対象

（今後、大人対象の物づくり教室を開催し、その後青谷上寺地遺跡展示館の体験教室
の補助者や講師で経験を積んでいただく予定）

応援団養成講座

青谷上寺地遺跡について初歩から学んでいただき、ボランティアガイドに従事して
いただける基礎を学んでいただく

青谷上寺地遺跡出土人骨DNA分析事業について

鳥取県では、国の研究機関と共同して青谷上寺地遺跡出土弥生人骨のDNA分析を進めています。当研究は、日本人のツール解明や弥生時代、弥生人像に変更を迫るかもしれない画期的な研究であり、その研究成果を情報発信するとともに、青谷上寺地遺跡整備への活用も検討する。

1. 研究成果の情報発信

(1) 中間成果報告会

実施時期：11月中旬

会場：青谷町総合支所多目的ホール

内容：分析の中間成果発表をいち早く地元にわかりやすく紹介

・青谷上寺地遺跡出土人骨の概要

・DNA分析による弥生人の研究状況、トークセッション等

(2) 分析中の人骨の特別展示

実施時期：11月中旬～

会場：青谷上寺地遺跡展示館

内容：DNA分析を行っている人骨等の展示・解説

人骨発見時の様子を撮影したパネルなどの展示・解説

(3) 第3回とっとり弥生の王国シンポジウム

実施時期：3月2日（土）

会場：とりぎん文化会館

内容：青谷上寺地遺跡出土人骨のDNA分析による研究成果などを紹介。最先端の研究から「倭人の真実」にせまる。

台風24号の対応等について (青谷町総合支所関係)

(10月6日 17:00時点)

1 気象警報等

9月30日 6:21 大雨・暴風警報発令 (市警戒本部体制)
 8:55 土砂災害警戒情報
 10:14 大雨警報 (浸水害)
 15:30 (市災害対策本部)
 17:28 洪水警報
 23:03 暴風警報解除

10月1日 3:56 大雨警報 (浸水害) 解除
 6:30 大雨警報 (土砂災害) 解除

2 避難勧告等の発令

9月30日 10:00 自主避難所開設 (総合支所)
 16:03 避難勧告 (駅前、西町)
 17:47 避難指示 (駅前、西町、吉川)
 18:08 避難指示 (下善田)
 18:47 避難指示 (東町)

10月1日 5:30 駅前・西町・吉川・東町避難指示解除
 13:26 下善田避難指示解除

-3 避難所の開設等状況

		避難者数等 避難場所：総合支所	水位	
			勝部川 (cm)	日置川 (cm)
9月30日	10:00	自主避難所開設	145cm	144cm
	14:00	1世帯 2人		
	16:00	3世帯 4人	211cm	199cm
	17:00	5世帯 6人	253cm	230cm
	18:00	10世帯 20人	308cm	267cm
	19:00	22世帯 52人	344cm	285cm
	20:00	55世帯 135人	346cm	293cm
	21:00	65世帯 162人	344cm	294cm
	22:00	51世帯 130人	297cm	277cm
	23:00	32世帯 83人	269cm	258cm
10月1日	0:00	28世帯 71人	244cm	236cm
	6:00	15世帯 38人	181cm	172cm
	7:00	2世帯 5人		
	7:35	0世帯 0人		

その他

自主避難所：山根 (1人)・早牛 (6人)・紙屋 (3人)・亀尻 (10人)

※参考

勝部川最大水位352cm (30日19:20)

270cm (氾濫危険水位), 200cm (避難判断水位), 190cm (氾濫注意水位)

日置川最大水位297cm (30日20:40)

290cm (氾濫危険水位), 260cm (避難判断水位), 240cm (氾濫注意水位)

雨量：降り始めからの累積 (9月29日4:00~9月30日22:00)

小畑 : 363mm

桑原 : 310mm

4 被害状況 (10月6日 17:00時点)

床上・床下浸水

住宅等：床下浸水47件、床上浸水 8件 計55件

事業所：床下浸水 2件、床上浸水10件 計12件

※その他 倉庫等床下浸水10件

産業建設課関係(169か所)

道路関係：58

※一部重複案件を含んでいます。

河川関係：24

土砂災害：27

農地農業用施設関係：55

市営住宅関係：2

海岸関係：2

その他：8

5 災害ゴミ回収、消毒液配布及び塗布実施状況

消毒液配布及び塗布合計：41件

災害ゴミ回収 : 7件

6 り災証明及び被災証明関係

り災証明申請：1件 被災証明申請：1件

青谷高等学校活性化を支援する会報告

○卓球部会

青谷高校卓球部及び卓球部OBによる卓球教室を7月29日開催予定していたが、台風の接近により中止（延期）。11月10、11日青谷オープン卓球大会開催時に、再度OBの協力等を確認した上で、今年度の卓球教室開催について協議し決定します。

○地域連携部会

日時：平成30年8月30日（木）18：00～

場所：青谷町総合支所

(1) 平成30年度 青谷学の取り組みについて・・・

「2年生青谷学」の取り組み状況について

▶2年生全員でジオパーク関連の講話と現地学習を実施した。

▶「あおいち」等地域イベントにボランティアとして参加

「3年生課題探究」について・・・

(2) 今後の取り組みについて・・・

○青谷高等学校活性化を支援する会

日時：平成30年9月5日（水）15：10～

場所：青谷高等学校 多目的室

（青谷高等学校訪問 授業参観）

(1) 学校訪問(授業参観について

(2) 部会からの報告

(3) 今後の取り組みについて

平成30年度第1回青谷高等学校活性化を支援する会

地域連携部会資料

1 青谷高校平成30年度取り組み

〈青谷学〉

◇資料1のとおり実施

◇あおいち等地域イベントへボランティアとして参加

(7月、8月、9月2回、10月参加)

〈課題探究〉

下記のテーマで研究

1	青谷の自然に関わるガイド	
2	青谷の自然のカレンダー&ポスター制作	
3	青谷の歴史・文化を紙芝居でガイド	
4	青谷の歴史・文化のカレンダー&ポスター制作	
5	和紙で巨大灯籠制作に挑戦	
6	青谷木綿の復活!	<ul style="list-style-type: none"> ・10月あおいち参加 ・山陰海岸ジオパーク中高生政策提案・実践コンテスト応募(11月)
7	自然酵母でパン開発	
8	魚食の促進	10月あおいち参加

2 今後の取り組みについて

〈青谷学〉

◇ポスターセッション

【時期】2月上旬予定

【場所】青谷高校3年次教室

〈課題探究〉

◇平成30年度課題探究発表会

【日時】平成30年12月14日(金)午前9時20分~午前11時50分まで

【場所】青谷町総合支所

◆第2・3研修室(1年次生68名)

◆ホール(2年次生87名、来賓、地域住民)

◆第1研修室、ホール隣準備室(発表者控室)

3 その他

平成30年度 青谷学社会人講師&現地学習

自然科学		文学歴史		ふるさと産業		農業・漁業	
社会人講師	現地学習	社会人講師	現地学習	社会人講師	現地学習	社会人講師	現地学習
〈講話〉◆4/20 「ジオパーク全般と青谷のジオサイト」について							
〈現地学習〉◆4/27 「青谷のジオサイト」 鳥取市あおや郷土館 館長 河根 裕二 氏							
①6/8	①6/8 日置川の谷 川上 靖 氏	①10月 青谷上寺地遺跡 濱田竜彦 氏	①10月～11月 青谷上寺地遺跡	①5/25 青谷木綿 塚本 均 氏	①8/31 紙漉き	(①)10月下旬 日光生姜)	①6/15 小麦収穫
②6/29	②6/29 勝部川の谷 一澤 圭 氏		②10月～11月 青谷上寺地遺跡	②6/1 青谷木綿 塚本 均 氏	②10/26 味噌づくり 尾崎恵子 氏	②10月下旬 愛ファクトリー	(②)10月下旬 日光生姜)
③8/31	③8/31 植物 清末幸久 氏		③10月～11月 青谷上寺地遺跡	③6/1 青谷木綿 塚本 均 氏	③1月中旬 山根酒造場 山根正紀 氏	③漁協連 夏泊	③10月下旬 愛ファクトリー
④10/19	④10/19 青谷海岸の地形 田邊 氏			④6/15 因州和紙 河根裕二 氏			
⑤9月ごろ	⑤9月ごろ 夏泊 安藤和也 氏			⑤10/26 味噌づくり 尾崎恵子 氏			
				⑥1月中旬 山根酒造場 山根正紀 氏			

第3回青谷高等学校活性化を

支援する会

～青谷高校作成参考資料～



地域の方の協力のもとで、生徒がリノベーションした売店

平成30年9月5日（水）

青谷高等学校多目的室

平成30年度 地域連携の取組①

青谷学 2年次

○第1回青谷学講習会 4月20日(金)

テーマ：ジオパーク全般と青谷のジオサイトについて

講師：鳥取市青谷郷土館館長 河根 裕二 氏



○第1回青谷学現地学習会 4月27日(金)

テーマ：青谷のジオサイト

講師：鳥取市青谷郷土館館長 河根 裕二 氏

御瀧山大善院 鈴木 純 氏

青谷町ガイドネットワーク会長 長谷川正昭 氏



長尾鼻



不動滝



子守神社



青谷学&課題探究 講師依頼先

1. ジオパーク関係
 - ・鳥取市あおや郷土館・鳥取市青谷上寺地遺跡展示館 館長 河根裕二
 - ・鳥取県山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館 専門員 安藤和也
 - ・青谷町ガイドネットワーク・勝部まちづくり協議会 学芸員補 金山恭子
 - ・鳥取市経済観光部鳥取砂丘・山陰海岸ジオパーク 会長 長谷川正昭
 - 推進コーディネーター
 - 村江利津
2. 青谷上寺地遺跡関係
 - (1) 発掘・整理作業
 - ・鳥取県埋蔵文化財センター 青谷上寺地遺跡調査整備担当係長 濱田竜彦
 - (2) 展示説明
 - ・鳥取市青谷上寺地遺跡展示館 館長 河根裕二、学芸員 鎌澤圭伸
3. 漁業関係
 - ・夏泊元海女 長田はつ子
 - ・鳥取あおや郷土館 学芸員 奥村寧子
 - ・公立鳥取環境大学環境学部 教授 吉永郁夫
4. 民俗行事関係
 - (1) うぐい突き 大堤池うぐい突き保存会 事務局長 谷尾幹夫
 - (2) 菖蒲綱 青谷町各町の菖蒲綱保存会

代表者の連絡先は下記の高橋克己さんに連絡を取り、教えてもらう。
 青谷磁器(有)・日本海新聞青谷専売所・高橋損害保険事務所 高橋克己
5. 農業関係
 - ・農事組合法人日光農産 代表 山花繁夫
 - ・いなば糶善 代表 木瀬善夫
 - ・鳥取県農林水産部農業振興戦略監 とっとり農業戦略課長 前田秀樹
6. 地場産業
 - ・有限会社山根酒造場 代表取締役 山根正紀
 - ・山崎醸造本舗 代表 山崎達郎
 - ・かちべ伝承館 尾崎恵子
7. 和紙関係
 - (1) 和紙製作体験 あおや和紙工房
 - (2) 講義 谷口・青谷和紙株式会社 社長 谷口博文
8. 歴史関係
 - ・鳥取市青谷町総合支所地域振興課 課長補佐 松原雅彦
9. 文学関係
 - ・児童文学 「若冲そうと出会った少年」著者 黒田志保子
10. 青谷木綿関係
 - ・元リファーレンいなば 塚本 均
11. その他
 - (1) あおいち関係
 - 鳥取市青谷町総合支所地域振興課 主幹 山田健一
 - (2) あおや和紙フェスタ関係
 - 鳥取市青谷町総合支所地域振興課 主事 太田

平成30年度 地域連携の取組② (ボランティア)

青谷海岸清掃 (平成25年度から継続した取組)

5月10日(木) 「産業社会と人間」(1年次必履修科目)
・1年次生(68名)が青谷海岸の清掃活動を実施。



あおいちボランティア

7月1日(日) 2年次生20名参加



○ボランティア活動

2年次「青谷学」ボランティア希望調査

「青谷学」では授業の一環で青谷町の地域行事に全員が1回参加します。ついては、参加可能な日に○印をしてください。提出締切：4月23日（月）

	日時	行事名	場 所	参加可能日
1	7月1日（日） 8時～12時	あおいち	夏泊漁港	
2	8月5日（日） 9時～14時	あおいち	かちべ伝承館	
3	9月2日（日） 9時～14時	あおいち	総合支所または ようこそ広場	
4	9月9日（日） 9時～14時	あおや鳴り砂 ビーチフェスタ	青谷海岸	
5	10月7日（日） 9時～14時	あおいち	青谷ようこそ館前広場	

2年次生「青谷学」ボランティア参加人数

4月23日（月）現在

	行事名	場 所	時間	参加者人数
7月1日（日）	あおいち	夏泊漁港	8時～12時	20名
8月5日（日）	あおいち	かちべ伝承館	9時～14時	7名
9月2日（日）	あおいち	総合支所 または ようこそ広場	9時～14時	20名
9月9日（日）	あおや 鳴り砂ビーチ フェスタ	青谷海岸	9時～14時	20名
10月7日（日）	あおいち	青谷ようこそ館前 広場	9時～14時	20名